

平成25年度第2回京都市政策評価委員会 摘録

日 時：平成26年3月27日（木）午前10時～11時50分

場 所：職員会館かもがわ 第2会議室

出席者：京都市政策評価委員会委員

河村委員長，窪田副委員長，大島委員，越村委員，福西委員，横井委員
事務局

大瀧京都創生推進部長，西尾政策企画課長，田近企画係長

1 開会

河村委員長

年度末の慌ただしい中，今年度の最後の会議であるが，スムーズに進めていければと考えている。御協力をお願いする。

2 議事

（1）平成26年度の改善方針（案）

河村委員長

議題（1）平成26年度の改善方針（案）について，事務局から説明をお願いする。

事務局

【資料1（平成26年度の改善方針（案））により説明】

河村委員長

まず前段の，委員会意見を踏まえた見直し案について議論する。

私から京都市のホームページについて，1点意見を述べさせてもらう。リニューアルされ，すっきりと見やすくなったのは良いが，トップページのバナーが無くなり，「政策評価」のページにたどり着きにくくなった。最終的には語句を検索し探すことができたが，現状は掲載しているページの階層が深く，どこに情報が掲載されているのかを探すのが大変であった。

また，「総合計画・政策」のカテゴリーに掲載されているかと思ったが，実際は「財政・会計・行財政改革・財産有効活用」のカテゴリー内の「行政評価」に掲載されていたため，適切なカテゴリーなのかが気になった。

また，「政策評価」に関するページ内でも情報が整理されていない印象を受けた。

窪田副委員長

政策評価は「総合計画・政策」のカテゴリーに掲載し，事務事業評価を財政関係の

カテゴリーに掲載するのが適切ではないか。

また、市政情報→市民参加→審議会等→京都市政策評価委員会のページでは、開催結果が平成23年度までしか出ていないので、その後の会議の結果も掲載すべきである。あるいは、「政策評価」のページにリンクしてもよい。

事務局

市全体に関わる部分と政策評価の部分を分けて考える必要はあるが、少なくとも政策評価の内容については整理させていただきたい。

福西委員

行政の広報は難しい。それぞれに行っている政策をアピールするため、いわゆる「縦割り」となり、見る人の視点で作成されておらず、見にくいことがよくある。

例えば、京都観光ポータルサイトの「e京都ねっと」があるが、観光の情報がまとまっていて分かりやすい。政策に関しても、こういったワンストップで見られるポータルサイトがあれば非常に分かりやすい。

河村委員長

次に「政策と施策の評価結果の乖離」については、いかがだろうか。

福西委員

従来の方法よりもなるべく説明が少なく済むような方法で評価するのがよい。

また、政策と施策の比率が2対1というのが適切かどうかは分からないが、政策の重要性を重視したうえで、より単純で計算しやすい比率であり、事務局案が良いのではないかと思う。

窪田副委員長

政策と施策の客観指標を別のものとする方法もあれば、今回の事務局案のように、政策評価結果に施策指標を取り入れて評価する方法も十分あり得ると思う。

事務局では、前回の議論を踏まえ、各部局での活用の観点などから調整していただいた結果の提案だと思っている。

大島委員

事務局案のとおり施策指標の評価結果を加味した場合、乖離は解消されるのか。

事務局

シミュレーションしたところ、政策評価結果と施策評価結果が合致するわけではな

いが、乖離があるものについて、差が縮まっている。

具体的には、1段階以上の乖離が見られた政策分野において、5つの分野で補正効果が見られた。

窪田委員

参考資料2について、1対0.5の割合というのは一般の方には分かりにくく、2対1でよいのではないか。

横井委員

事務局案は市内部で議論され、熟慮していただいたことがよく分かる。

前回申し上げたが、いくら丁寧に説明したとしても、やはり結果でまず判断されるということから、評価方法の見直しをした方がよいといった意見が踏まえられている。私としては、よいと思う。

河村委員長

それでは、事務局から提案いただいた改善方針案で進めていただきたい。

(2) 平成26年度市民生活実感調査（案）

河村委員長

議題（2）平成26年度市民生活実感調査（案）について、事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料2（平成26年度市民生活実感調査（案））により説明】

河村委員長

何か意見はあるだろうか。

窪田副委員長

関連事項として、本日席上配布しているゼミ生が作成しているパンフレットでは、「実感調査navi」として、「箸休め」的なページを作成しており、ここでは、一般の方に伝わりやすいように、大学生が実際に市民生活実感調査を回答してみた感想などを書いている。

パンフレットにも記載のとおり、学生からはアンケートの意義がわかりにくいといったことや回答には意外と時間がかからなかったという感想を聞いている。

この点、アンケート調査が政策評価に影響のある大切なものといったことを強調し

たり、アンケートの記入が大した手間ではないことを説明し、アンケートが届けばすぐに回答してもらえるように工夫してみてもどうか。

福西委員

所要時間を書くのはよい。最近はインターネットでのアンケートでも、「目安10分」などと書かれている。

事務局

いずれかのページに記載する方向で検討させていただきたい。

河村委員長

パンフレット内には市民生活実感調査の設問が抽象的で難しかったという意見もある。我々は見慣れてしまっているため、なかなかこういった問題に気付きにくくなっている。

ただ、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしてほしいことは記入方法にはっきりと記載している。

窪田副委員長

パンフレットでは、評価の良かった政策分野として「大学」を取り上げ、あまり評価が良くなかった政策分野として「青少年の成長と参加」を取り上げた。

「青少年」の評価結果があまり良くない原因としては、市民生活実感評価結果が低調で、全体の評価を引き下げているからである。ただ、インタビューを通して詳しく調べた結果、京都市では出来る限りの対策を行っているということであり、支援を要する若者に対するサポートも実施し、事業の効果は出ているということが分かった。

ただ、ここから市民生活実感評価を向上させるためには、様々な広報やPRをしていかないと難しいと考えられるが、やはり生活に身近でない分野については興味を持ちにくいということもあり、調査にはある程度限界があると考えられるのかもしれない。

河村委員長

設問は、個別の取組について聞くというよりは、抽象と具体の間を狙い、ある程度抽象的で、包括的に捉えられる内容としている。設問に関わりのある方には内容がよく分かり、分からない方にはほとんど分からないといった形となっているが、それでよいと思う。

大島委員

先ほどの「青少年」に関しては、身近に青少年がいる方は少なく、メディアが大きく評価に影響しているのではないかと思います。

例えば、青少年活動センターは活発に取組を行っているが、情報が知られていないのかもしれない。

河村委員長

市民の方が設問と青少年活動センターの取組が結びつくことが分からないといった可能性もある。

他に気付いた点としては、アンケート調査の依頼文でホームページアドレスが記載されているが、長いため、入力するのが大変である。

横井委員

よくある例として、「キーワードを検索」などと記載してはどうか。

河村委員長

それでは、御意見を踏まえ、来年度の市民生活実感調査を進めていただきたい。
多くの回収があることを願っている。

(3) その他

河村委員長

議題(3) その他であるが、事務局からお願いします。

事務局

3点報告させていただく。

まず、市民意見申出の実績については、前回委員会以降、該当がなかったため、現在のところ平成25年度の累計は6件である。

次に、市民生活実感調査結果の分析について、大学コンソーシアム京都との共同事業である「未来の京都創造研究事業」において行っており、取りまとめ中である。今回は政策ごとに特徴が分かるような工夫をするほか、経年的に分析ができるような形で進めている。

最後に、政策評価委員会委員の皆様の任期について、公募委員以外は今年の6月末、公募委員は8月末となっているため、現在の委員構成では最後の委員会となる。

河村委員長

窪田副委員長からパンフレットの紹介をお願いしたい。

窪田副委員長

非常に不安もあったが、何とか最終段階まで作成することができた。

紙出力したものは最小限にとどめ、基本的にはインターネット上でダウンロードが可能なようにしたい。また、可能であれば京都市のホームページからもリンクを貼っていただければと思う。

パンフレットには2014と記載しているが、毎年作成するわけではなく、また何年後かにリニューアルできればと考えており、半公式的なガイドブックとして見ていただければと期待している。

このパンフレットは、京都市の政策評価制度を違う角度から見て理解を深めていただくといったことや、一部の政策を取り上げ、分からない部分を掘り下げて調査し、評価をしていくといったことを狙いとし、作成を開始したものである。

政策評価制度を説明するページには河村委員長に登場いただいたほか、事務局の様子やインタビューなども掲載し、政策評価のプロセスを紹介している。そして、前述した楽しいページ「実感調査 navi」に続き、「大学」や「青少年」の政策を取り上げるページとなっている。改善策の提案にまで踏み込むことは難しかったが、インタビューなどを通して、担当者の思いなどは深掘りすることができたと思う。

パンフレットは昨年から大学院で履修している山根さんの指導の下、すべてゼミ生により作成されている。

河村委員長

傍聴席におられる学生の方から一言いただければ。

傍聴者（秦さん）

未完成ではあるが、完成度を高め、皆さんに見てもらえるものにしていきたい。

傍聴者（山根さん）

手に取って興味を持ってもらえるものがあれば、もっと政策評価制度を知ってもらえるのではないかと考え、作成を進めてきた。

まだ完成ではないが、こうして実際に形になったことがうれしい。

大島委員

政策評価は評価のための評価ではないので、少しでも評価結果を活用するために、こうして京都で学ぶ学生の研究にも使ってもらえるのはよい取組である。是非継続してやっていただきたい。

窪田副委員長

事務事業評価に「事務事業評価サポーター制度」があるように、政策評価でも学生にいずれかの政策を取り上げ、研究してもらい、最終的には研究成果を発表し、担当部局と意見交換するといった取組も考えられる。

横井委員

例えば、自治体の職員が集まるセミナー等で、京都市の政策評価が実際にまちづくりに生かされ、学生も研究対象にしているといった事例を発表すれば市民にも理解してもらえ、京都市のアピールにもつながるのではないかと。また、政策系の大学生が集まる大会などでもこういった取組事例を発表するのもよい。

これからは自治体の職員もいかにアピールしていくか、といったことが重要だと思う。自ら企画提案し、積極的に業務を行う職員を評価していくべきである。

窪田副委員長

およそ1,000の自治体が行政評価を導入しているが、業績測定を継続している自治体は減ってきている。京都市は継続して実施している貴重な事例であるため、例えば英語で世界に発信していくことも考えられる。

横井委員

市民の声を聞くことは大切なことだが、中には個人の利害が含まれており、多数の意見が必ずしも正しいとは限らない。多数の意見に限らず、本当に重要と考えられる政策については行っていかなければならない。長期的な視点を持ち、優先的にやるべきことをやっていくというような、全体のバランス感覚を持って判断できる人が選挙で選ばれるといった仕組みが構築されなければいけないと思う。

越村委員

これまで市の審議会や「未来の担い手・若者会議U35」で市政と関わってきたことから、一般の方よりも知識はあると思うが、評価に至った理由など、すぐには分かりにくい部分がまだまだある。政策評価委員会では3年にわたり、どう分かりやすく評価し、市民の方に伝えていくかなどを勉強させていただいた。

今後も京プランに基づき評価を行われると思うが、社会情勢の変化があり、市民の思いも変化していくため、様々な角度から評価されるべきだと考えさせられた。

河村委員長

今回も様々な御意見をいただいた。今後も継続性と発展性を持ちながら政策評価制

度を続けていってもらいたい。

本日の議論の内容を委員会の意見としてまとめ、京都市に提出させていただく。この点は事務局案と委員長に御一任いただきたいが、よろしいだろうか。

(異議なし)

河村委員長

本日は御議論，ありがとうございました。

今後とも京都市の施策も評価も優しくかつ厳しく見ていくということでお願いしたい。

それでは事務局にお返しする。

事務局

本日はありがとうございました。

行政だけでは改善策が出てこない部分が多くあり，様々な御意見が今後の進め方の指針となった。京都市はもっとPRをしていかなければいけないといった話もいただいたため，できる範囲で行ってまいりたい。また，学生の皆さんは貴重な時間を使い，分かりやすいパンフレットを作成していただき，御礼を申し上げる。

頂いた御意見を踏まえ，来年度も改善し，よりよい制度の構築に努めてまいりたい。引き続き，お力添えをいただきたい。

本日は，これにて閉会とさせていただきます。

(以上)